

出穂は平年並～やや早い予想  
適期穂肥で高品質・良食味米生産！



※**気象情報**(新潟地方气象台7月15日発表)【7月17日から8月16日までの天候見通し】  
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

## 1. 特栽米コシヒカリ生育調査結果(7月20日現在)

田植日(5か所平均): 5月9日

項目	本年値	前年比	指標値比	※調査について
草丈(cm)	84.6	108.5%	112.8% (やや長い)	【草丈等数値】 北越後管内定点調査ほ5か所平均値
茎数(本/m <sup>2</sup> )	401.1	80.4%	93.9% (並)	
葉数	11.6	+0.5 葉	±0.0 葉 (並)	【指標比・差】
SPAD	32.7	-3.3	-0.3 (並)	5月10日以降の適期移植の理想生育との比較

## 2. 出穂予想

**コシヒカリの出穂期は平年並からやや早まりそう**

出穂期は「平年並」の予想でしたが気温が高めに推移し、出穂期はやや早まりそうです。  
今後の天候の推移に注意し穂肥を施用しましょう。

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素 量合計 (kg/10a)	穂肥時期		湛水管理 開始時期
				1回目	2回目	
コシヒカリ	7月15日	8月6日	1~3	7/19~7/22 (-18~-15)	7/27 (-10)	7/12 ~

- コシヒカリは5月10日頃移植を基準に予想したものです。
- 出穂期は今後の気象状況により前後しますので、ほ場ごとの幼穂や葉色を確認するなど生育診断を実施し適正な穂肥を施用しましょう。

## 3. 後期栄養の確保

【分施の場合】

後期栄養を確保するため、2回目の穂肥は必ず施用しましょう。

【基肥一発肥料における穂肥対応】

基肥一発肥料は基本穂肥施用の必要はありませんが、場合によっては多少の穂肥を必要とする場合があります。

①元々後期栄養が持続しない低地力ほ場、又は極端に葉色がさめている。

②基肥一発肥料の施用量が少なかった。

☞上記のような場合、後期栄養を重視し下記を参考に穂肥施用を検討しましょう。

《参考》コシヒカリ出穂10日前の葉色と追肥のめやす

使用する穂肥	SPAD値	葉色版	施用時期	施用量
化学肥料	32以下	4.2以下	出穂10日前	チツソ1.0kg
有機質肥料(有機由来100%)	34以下	4.5以下		チツソ1.5kg

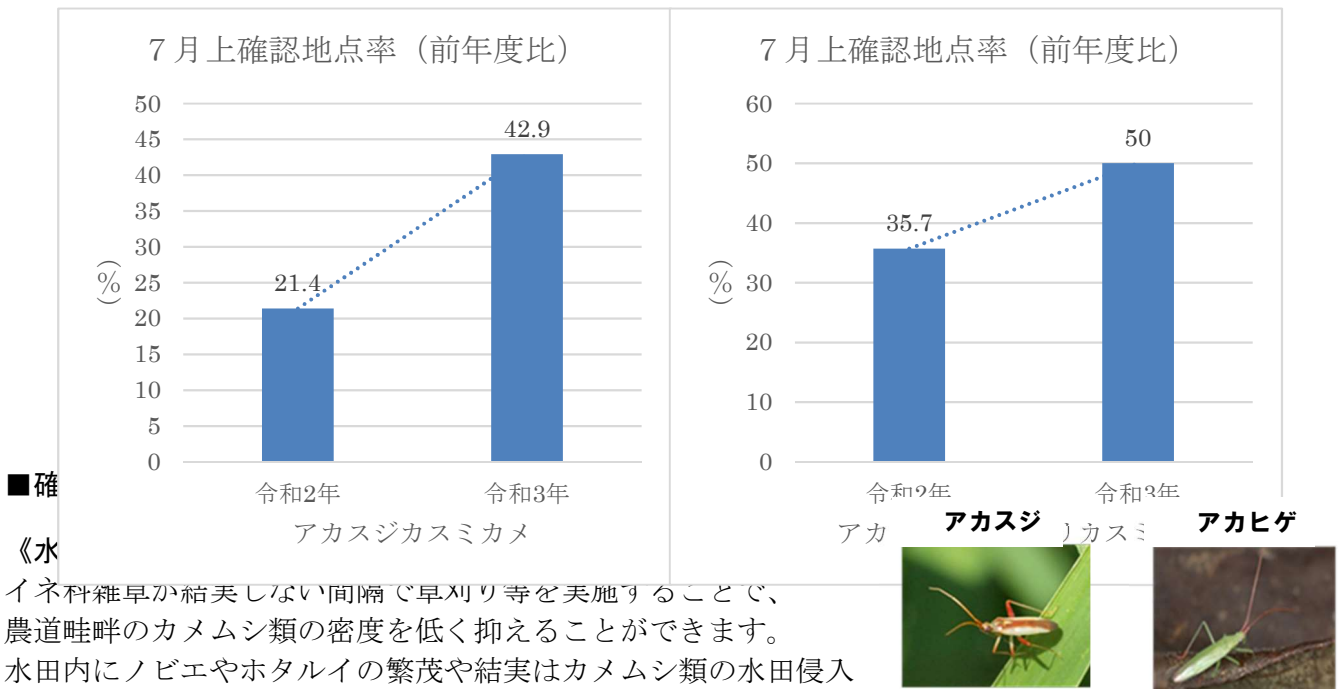
## 4. 出穂期の水管理

出穂期前後(幼穂形成期から登熟期)は稲にとって最も水を必要とする期間です。但し湛水管理期間中、高温が続く場合は水温上昇による「根腐れ」が心配されます。可能な限り水交換を行い根の健全化に努めましょう。

## 5. 病害虫発生情報(7月12日:新潟県病害虫防除所)

### ① 斑点米カメムシ類

・7月12日新潟県病害虫防除所の発表では被害が多発した昨年より下越地方でアカスジ・アカヒゲ両カメムシ類の確認地点、すくいとり虫推移について前年より多くなっています。



### ② 葉いもち 「下越でこしいぶきの葉いもちの発生が確認されました。」

- ・6月下旬から感染好適条件が断続的に出現しており、いもち病感染の可能性があります。
- ・いもち病に弱い品種は確実に防除しましょう。
- ・発病が確認されたら、一斉防除期間前でも直ちに防除を実施しましょう。

いもち病病斑



### ③ 紋枯れ病

- ・前年発生量が平年比やや少なく、越冬菌核量は平年比少ないと推定されます。

## ■地域一斉防除計画に基づき防除を徹底しましょう。

農道・畦畔の草刈りはカメムシの餌となる雑草が結実しない間隔で計画的に実施しましょう！(8月以降も適宜草刈りを実施しましょう。)

■草刈り機使用時はゴーグル等を着用し安全確保に努めましょう。

■連日猛暑が続いておりますので、無理な作業は行わず、こまめに水分補給し熱中症にご注意ください。